

プロジェクトマネジメント講座

5.1 スコープマネジメント スコープマネジメント計画

スコープマネジメントに含まれるプロセス（要求事項収集プロセス・スコープ定義プロセス・WBS 作成プロセス・スコープ妥当性確認プロセス・スコープコントロールプロセス）の進め方を計画立て、スコープマネジメント計画書と要求事項マネジメントを作成するプロセス。詳細は以下のとおり



5.1.3 スコープマネジメント計画【アウトプット】

- スコープマネジメント計画書…スコープマネジメントの作業の進め方を記述した計画書。主に以下が記述内容。
 - ・ 詳細なプロジェクト・スコープ記述書の作成について（スコープ定義プロセスの方法）
 - ・ 詳細なプロジェクト・スコープ記述書から WBS の作り方について（WBS 作成プロセスの方法）
 - ・ 完成した成果物の公式な受け入れ方法について（スコープ妥当性確認プロセスの方法）
 - ・ プロジェクト・スコープ記述書の変更の方法について（スコープコントロールプロセスの方法）
- 要求事項マネジメント計画書…要件定義の方法について記述した計画書。主な記述は以下のとおり。
 - ・ 要求事項活動の計画、記録、レポートの方法
 - ・ コンフィギュレーション活動の方法 等

5.2 スコープマネジメント 要求事項収集

プロジェクト目標を達成するためにステークホルダーのニーズを定義して、文書化します。要求事項を定義することは、立ち上げプロセス群（プロジェクト憲章作成プロセス・ステークホルダー特定プロセス）と計画プロセス群（ステークホルダーマネジメント計画プロセス）の情報を分析することからスタートします。

ステークホルダー特定プロセスというのは、ステークホルダーマネジメントの 1 プロセスで、プロジェクトに関わるステークホルダーを特定し、そのステークホルダーに関する情報を文書化するプロセスのことです。

5.2.1 要求事項収集【インプット】

- スコープマネジメント計画書（スコープマネジメント計画プロセスのアウトプット）
- 要求事項マネジメント計画書（スコープマネジメント計画プロセスのアウトプット）

- プロジェクト憲章（プロジェクト憲章作成プロセスのアウトプット）
- ステークホルダー登録簿（ステークホルダー特定プロセスのアウトプット）
→立ち上げプロセス群の分析から、要求事項収集は始まる。また両文書ともに初期段階の要求事項が記載されている。
- ステークホルダーマネジメント計画書（ステークホルダーマネジメント計画プロセスのアウトプット）
→ステークホルダーのプロジェクトの関与レベルを高めるためには、要求事項は重要な要素である

5.2.2 要求事項収集【ツールと技法】

- グループ発想技法
 - ・ブレインストーミング
 - ・ノミナル・グループ法 … デルファイ法の一部。参加者を1つの部屋に集め、参加者に考えるリスクをメモ用紙に書いてもらう。その要望が書いてあるメモ用紙をホワイトボードなどに貼り、レビューし、優先順位をつける。
 - ・マインド・マップ法
 - ・親和図 … 要望を出し、カテゴリー毎にグループ分類をして、表札をつける。その後、検討・分析
- コンテキストダイアグラム (context diagrams)
コンテキストダイアグラムはプロセスや装置やコンピューターシステムなどのビジネスシステムを見せることで、成果物スコープを視覚的に表現ができると言われています。つまりデータフローダイアグラム (DFD) がこのコンテキストダイアグラムに該当します。DFD とはシステム間のデータの流れを示す図のことで、データの流れを矢印で表現する図のことです。
- 文書分析 (document Analysis)
文書分析では存在する文書を分析したり、要求事項に関連する情報を特定することで要求事項を引き出すことができるとされています。文書には RFP などが含まれます。

5.1.3 要求事項収集【アウトプット】

- 要求事項文書
要求事項をまとめた文書。各ステークホルダーの要求事項がプロジェクトの目標を満たしてくれるのかをはかる文書。情報が増えるに従って、段階的に詳細化される。主な掲載内容は以下のもの。
 - ・プロジェクトの目標 ・成果物の機能要件 ・成果物の受入基準 ・品質要件 等
- 要求事項トレーサビリティマトリックス
要求事項を追跡するための確認表。プロダクトの要求事項と成果物の結びつきを示す。主な項目は以下のもの。
 - ・プロジェクトの目標
 - ・プロダクト設計
 - ・プロダクト開発 等